

## 第 211 号 内容紹介

### 1, キューバ国際支援船団が到着

海上船団から始まった取り組みは多角的な世界規模の支援隊へと拡大。支援物資は欧州やラテンアメリカから空路で到着し、米国からはチャーター便が、メキシコからは海上輸送便が相次いで到着した。

### 2, B・ノートン「米帝国とたたかうイランの非対称経済戦争」

トランプの侵略戦争に対し、イランは非対称戦術を用い、米国企業やドルの覇権を標的とし、オイルダラー体制に異議を唱え、原油販売を中国人民元で行うよう要求している。

### 3, P・ハンゼラー「米帝国は支配を失いつつある～その帰結」

イラン攻撃にでたトランプの完全な誤算は、イスラエルの没落と中東における米国の影響力の喪失につながるのだろうか

### 4, B・メディア「イラン戦争での中国とロシアの役割 = 神話と真実」

両国は自国の利益を優先しているだけなのか、それとも戦略的連携で実質的なイラン支援をおこなっているのか。2つの見方を検証している。

### 5, P・ボンド「BRICS は期待された役割を果たしているか」

加盟国の拡大によって存在感を増したものの、インドをはじめ多くがイスラエルとの経済・軍事協力を深めており、反帝国主義の旗手として期待された役割を果たせていない。左派からの現状批判。

その他の記事は「AALA ニュース編集日記」で参照できます ([aala news の編集日記 \(livedoonar.jp\)](#)) なお紹介している論考は学習資料であり、内容の全部も一部も日本 AALA の見解や立場を反映したものではありません。